いつもどおりの世界

佐藤　厚希

　私は、難聴であり、普段は地域のクラブチームでサッカーをしています。チームメイトは、全員耳がきこえます。私は、人工内耳のおかげでみんなと会話することができます。しかし、合宿中や人工内耳の充電が切れてしまった場合は、きこえなくなってしまうので、会話が難しくなってしまいます。だが、みんなは私の難聴を理解してくれているので、ゆっくり、はっきり話してくれ、メモやお風呂の時は、くもった鏡に文字を書いて話しかけてくれます。普段の会話やミーティングは、コーチの横に行き、ききづらかった時は、マスクをその時だけ外してもらっています。時には、聞き逃してしまう時もあります。その時は、後から友だちにきいて教えてもらっています。今までで印象的だったことが三つあります。

　一つ目は、一つ上の学年の公式戦で初勝利がかかっている中、自分が決勝点を決め、残り十分の時、攻められているので、チームのフォーメーションを変えました。その時、雨が降っていてきこえにくかったが、コーチが傘を使って「戻れ」という指示を出してくれたので、それに気づき、チームが勝てたことです。

　二つ目は、公式戦に呼ばれたが、その日は運動会と重なってしまいました。だから、コーチに相談をしに行ったが、周りがうるさくて、きこえにくかったので、家に帰ってからLINEでコーチに「周りがうるさくて、きこえにくかったので、もう一度教えてください。」と伝えました。コーチはしっかりと教えてくれました。

　三つ目は、試合前や試合中にチームメート同士でアドバイスや注意を話し合います。きこえにくかった時は、試合後にきいて、次の試合で生かせるようにしています。私は、きき逃したり、もう一度聞きなおしたりすることが多くあります。

　先日、私は友だちと一緒に友だちの知り合いのチームの練習に参加しました。そのチームは小学生のチームでした。小学生の子どもたちは、「耳につけているのは何」や「イヤホンをつけているの」ときいてきました。私は、難聴を理解してもらえるようにていねいに伝えました。

　大変なのは、サッカーだけでなく、塾の時もです。講師の声が小さく、周りの声が大きいのできこえづらく、ききなおそうと思っても、まだ声が小さいので、繰り返しききづらくなってしまいます。その時は、学校の授業で理解したり、復習をしたりします。

　私は、友だちやコーチに自分の難聴について理解してくれているから、サッカーも楽しくできているのだと思います。子どもから大人まで、世界中の人々が難聴について理解していってほしいと願っています。